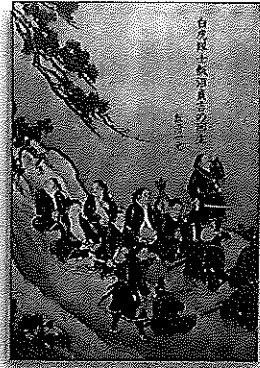


# 白虎隊士飯沼貞吉の回生

飯沼一元 著



## 「白虎隊生き残り」隊士 数奇な運命を孫が追う

ブイツーソリューション・1890円

数え16~17歳の少年達が戊辰戦争で新政府軍と戦った会津白虎隊。20人（実際は16人）が飯盛山で集団自刃した悲劇は、広く知られている。飯盛山でただ一人生き残ったのが飯沼貞吉だ。「死に損ない」の屈辱に耐えながら、逋信省で黎明期の電信架設にかかわり、昭和6年に78歳で没した。本書は、直系の孫が血縁者ならではの大胆な推論を交えて、白虎隊自刃の真実と、関係者のその後を追究したものだ。

### 宿敵・長州との奇縁

——表紙になっっている絵には、異様な迫力がありますね

飯沼 飯沼貞吉が明治44年ごろ、出入りの絵師に描かせた白虎隊自刃の図です。世間には様々な白虎隊自刃の図が出回りましたが、槍にすがって城を眺めているなど史実と違うものばかり。ただ一人、現場を知る祖父は我慢がならなかったんでしようね。それでこの絵を描かせたのだと思います。正規軍らしく服装は黒羅紗の制服で鉄砲を持ち、会津の「會」字の肩章を縫い付けてあり、16人が描かれています。

——ご自分が白虎隊士の子孫だということば

飯塚 祖父の終の棲家となった仙台市で私が生まれたとき、祖父はすでに他界していました。生き残りの白虎隊士だったことは知っていました。その話はタブー扱いで、家族で話題にすることはあ

りませんでした。

小学校の修学旅行では飯盛山に行くのが恒例でした。その事前学習で、クラスの誰かが飯沼貞吉のことを調べて私が孫だと知り、「わざとあつさり喉を突いた」などと黒板に落書きされ、イジメの対象となったこともあります。

生き残ったのは情けないという見方もありますが、私の生があるのは祖父のおかげです。蘇生後の貞吉は、電信（現在の電報）一筋に生きる傍ら、白虎隊自刃の図・奮戦の図・手記などを残しました。「ならぬことはならぬ」を叩きこまれた白虎隊士としてきちんと筋を通して生きたのだと誇りに思っています。

——貞吉について調べるようになったのは

飯沼 「貞吉が長州に連れて行かれて、養育された」という論文が発表され、それをわざわざ私に送ってくれた人がいたので。宿敵長州の世話になるなんてとんで

もない。間違いだという証拠を見つければと調査を始めたのがきっかけです。

ところが、長州の檜崎屋敷で貞吉の世話をしたという高見家の口伝が実にリアルで、現在も語り継がれています。さらに貞吉を養育したとされる長州藩士・檜崎頼三の玄孫の女性から「頼三が会津の貞吉母あてに密書を送った」という証言が飛び出しました。残念ながら、長州滞滞説は事実と認めざるを得ません。

でも、調べるうちに長州へ行った、行かないよりも、貞吉の生きた方自体に興味を持つようになりました。自刃失敗という取り返しのつかない心の傷を負い、満14歳で家族とも離ればなれになって世の中に放り出された。彼はどうやって立ち直り、生きる希望を見いだしたのだらうかと。

——その希望が、その後従事することになる「電信」との出合いなのです

飯沼 檜崎頼三の陣中日記を読むと、会津を攻め落とした後、東京滞在中に日本橋の本屋を呼んで本を買ったと記している。その中に当時のベストセラー、福沢諭吉の『西洋事情初編』が含まれているに違いありません。この本には「電信機」が紹介されています。貞吉は檜崎屋敷での謹慎中にこれを読んで、電信技術に興味を持ったのだと推測しています。

——明治5年に逋信省（当時は工部省）に入り、下関を振り出しに九州から東北・北海道まで赴任した。明治期の日本の通信発展の軌跡そのものですね

飯沼 日清戦争では、貞吉は技術部統監として京城・釜山間の電信線架設工事を担当しています。当時、朝鮮の電信が故障しており、京城から釜山までの連絡は、電文を護衛艦付きの汽船で運んで往復する方法がとられていました。貞吉が悪疫に脅える炎天下の

作業を語った新聞記事や手記が残されていて、当時の様子を知ることができました。戦地に行っているのは早く電信を引く。情報を制するのは今も昔も勝利の要でしょう。

当時の電信は欧米の専売特許でした。電信を自力で確立し普及させたのは、アジアでは日本だけです。私もNECで通信技術の研究をしてきたので思い入れがあつて、その辺はぜひ書きたかった。

### 飯盛山自刃の真相

——この本で、もう一つ大きな検証テーマは、飯盛山での自刃の理由。いわゆる「落城誤認説」の否定ですね

飯沼 白虎隊自刃の理由は、飯盛山から城下を見て、「お城が燃えている。落城した。殿の後を追おう」というのが通説になっていて、現地の観光ガイドもそう説明しています。実際は、鶴ヶ城は落城していないどころか、この後一

カ月にわたって新政府軍の猛攻に耐えました。

私はずっと、この説に疑問を抱いていました。集団で死ぬことは簡単ではありません。そんな程度で理由で、血気盛んな少年たちが一糸乱れず自刃するでしょうか。もつと深い意味合いがあるはずですよ。

——そこに平成20年、貞吉自筆の『白虎隊顛末記』が飯沼家で発見された

飯沼 紙を継ぎ足し、朱をたくさん入れた下書きの形で残されていました。自刃の場面は、次のように書かれています。

「敵軍に突入し玉砕しよう」「鶴ヶ城は炎上しているように見えるが、簡単に落ちるはずがない。敵に見つからぬように南下し、入城を目指すべきだ」などと激論が交わされた。最後に「敵に捕らえられ屈辱を受ければ主君にも祖先にも申し訳ない。潔く自刃して武士

の本分を明らかにすべきだ」との結論に定まった。

藩主・松平容保が藩命をかけて京都守護職を受諾。天皇を警護し、朝廷に至誠を尽くした会津藩が、戊辰戦争では一転して朝敵とされ攻め込まれた。表立って書かれてはいませんが、その理不尽に対する抗議を集団自刃という形で示したものと私は考えています。「落城誤認説」は彼らの子供扱いしたお涙頂戴物語で、泉下の白虎隊士の立場になって考えると、侮辱だと思えて許せません。あれは犬死にだと言う人もいるくらいですから。

——史実を調査し、白虎隊の「義」を伝えるため、平成22年に「白虎隊の会」を設立されたのですね

飯沼 「武士の本分を明かすため」という自刃の理由を記した新たな説明板を、飯盛山に立てました。現在、会員は170人ほどです。——

そのうち会津藩士の血縁者は17人。これまでに白虎隊ゆかりの人々の記念碑を山口、長崎などに建立し、講演会などを通じて白虎隊の「義」の普及に努めています。

——「落城誤認説」を否定する主張は、浸透しているのですか

飯沼 残念ながら、地元・会津ではなかなか受け入れられませんが、「白虎隊の会」は下関支部もあつて、30人ほどの会員が活発に

活動しています。貞吉が長州で養育された縁もありますし、会津と長州の懸け橋になればと願っているのですが。

——23年には、東日本大震災で被災した若者を支援するNPO法人「海の会」も設立された

飯沼 会津藩は戊辰戦争で敗れた後、厳寒不毛の斗南（青森県下北半島）に集団流罪となり、餓死者を出すような辛酸を舐めました。それでも臨時に藩校を開設



いぬま・かずもと 昭和18年、仙台市生まれ。40年、東北大学工学部卒。45年、同大学で工学博士取得。同年、日本電気入社。研究所で画像処理を担当し、研究所長、本社理事支配人を歴任。平成5年、(株)ライステックを設立し、米ぬか健康食品のベンチャー事業に携わる。22年4月、白虎隊の会 (<http://byakko1868.web.fc2.com/>) 設立。23年7月、海の会 (<http://www.uminokai.jp>) 設立。

し、他藩へ留学させるなど、子弟の教育に力を注ぎました。震災の被害を見て、私も会津士魂を引き継ごうと考えたのです。

首都圏への進学や就職を目指す若者に、月額10万円までの経済的支援をしています。返還は求めません。現在、奨学生は6人。年会費5万円または50万円を納める会員が30人、ほかに300人くらいの方から寄付をいただきました。東北大学OBの研究室仲間にも声を掛けて始めたのですが、あつという間に立ち上がりました。われわれ世代はお金を残しておいても役に立ちませんから、「後進の役に立つなら」との思いです。経済面だけでなく、進学・自己啓発・就職などでアドバイスできる知識や人脈もあります。この先十年くらいは頑張つて続けなければと思っています。

(聞き手/本誌 永井優子)